

2021年10月号

馬場川新聞

あなたも「めぶく。」しませんか？



BABAKKAWA URBAN DESIGN PROJECT

アイデアの 見える化

いよいよ準備委員会の第一期は 最終提案へ！

2021年9月、馬場川通りアーバンデザインプロジェクト準備委員会による第4～6回のワークショップは、すべてオンラインにて実施されました。第3回までのワークショップから導かれた「ゆるく、つながる」という考え方を基本に、「Petでつながる」、「Kidsでつながる」、「〇〇〇でつながる」の3チームに分かれて、10月実施を目指した社会実験として具体的な実行計画にまとめていきます。「狭いわりに車通りが多いので、歩行者だけの空間で安心して歩いてみたい。」「馬場川通りを、多世代交流できる通りにするには、どうすればいいか。」など、これまでに出了たアイデアを目に見るように具現化することを目指します。

議論白熱！ 第4回のワークショップ

まず「Petでつながる」チームの第4回では、もともとペットを連れての散歩コースにもなっている馬場川通りは、ペットを通じて人々が「ゆるく、つながる」にはとても適しているため、活発な議論が繰り広げられました。ワークショップでは「ドッグランとか休憩スペースが必要だね」、「ペットの記念撮影なんてどうだろう。」「きれいなお花がバックにあるといいよね。」「ハロウィンだし、仮装をさせたら面白いね。2つのアイデアをくっつけて仮装したワンちゃんがお花をバックに撮影したらどうだろう」など、1つのアイデアを呼び水に次から次へとアイデアが飛び出しました。一方で、ペットの排泄物処理など社会的な問題にも目を向けようという意見も出ました。

続いて「Kidsでつながる」チームでは、子供同士がつながることだけでなく親同士もつながることを念頭に議論が進められました。アイデアは近隣の施設とも関連づけられ、たとえばアーツ前橋なら野外展覧会や道路にチョークでお絵かきなどの「アート・ワークショップ」、元気21の子供図書館なら野外図書や読み聞かせ交流、絵本の交換会などの「ブック・イベント」が挙げられました。さらには、馬場川通りを歩く誕生月の子を祝う「バースマンズ・イベント」から、ポートを作って馬場川に流すというような水辺ならではのワークショップ、馬場川通りだけにトランプのババ抜き大会まで、面白い意見もたくさん出されましたが、これらから1つを選ぶ必要があるのかというアイデアのとりまとめの難しさも浮き彫りになりました。

最後にテーマを決めずに議論する「〇〇〇でつながる」チーム。「〇〇〇」に入る色々なアイデアが出たなかで「マルシェに全部要素を詰め込めるのでは？」という話になりました。そしてマルシェは一発モノではなく、定期的なイベントにすることで、出店者同士、来場者と出店者、来場者同士のつながりができるもの。さらに毎週末定期的に実施されることで「みんな今日は何をやっているのかな？」と馬場川通り近辺に散歩に行く習慣ができ、体験型出店や発表を続けることで新たなメンバーになったりと、つながりの広がりも期待できます。



中間発表！ 第5回のワークショップ

「Petでつながる」チームの第5回では、「トリミング」をテーマにBefore-Afterの写真撮影、馬場川の水を利用した「ペットの排泄物処理」の啓蒙活動、馬場川の植栽は勢多農林高校植物デザイン科フラワーデザインコースの皆さんが管理してくださっていることから、勢多農林高校の動物化学科や群馬動物専門学校にも協力をお願いした「フォトスポット」の設置などの計画内容が検討されました。

次に「Kidsでつながる」チームは、馬場川で子供たちが「あそぶ、つくる」体験を通じて、普段出会わないようなコトに「つながる」親子で楽しめる計画内容が検討されました。アーツ前橋や元気21などアートとキッズの近隣施設とも関連づけながら、景観となる植栽はもちろん、モザイクアートやチョークアートも重要な仕掛けとされました。

さらに「〇〇〇でつながる」チームは、「つながるマルシェ」として事業者やチャレンジしたい人を応援し、馬場川通りを楽しむ人々と混じり合って「自分たちの魅力を伝える場」にするための計画内容が検討されました。既存店舗とチャンレンジャーの共生、音楽やアートの発表の場、空き店舗のタイムシェア化とともに、通りの広さがマルシェをやるのにちょうど良く、既存店舗にもチャンレンジャーにも良き舞台となること、川を眺めてのリラックスなど明るい馬場川を発信できることが挙げられました。そして、参加者募集やプログラムを担当する「運営チーム」と、屋台やステージなどの場づくりを担当する「建設チーム」に分かれて準備が進められました。

そして各チームの第6回、準備委員会として社会実験に向けて各チームの構想発表会を行いました。(裏面へとつづく)

勢多農林高校フラワーデザインコースの皆さんからもアイデアが！

「馬場川の花壇について」や「馬場川に求めるもの」を動画にまとめていただきました。高校生とは思えない出来栄に準備委員会のメンバーも感動！



構想発表！ 第6回は社会実験に向けて計画発表へ

ペット
チーム

ペットを通じた偶然の出会い



第6回の構想発表会では、「ペットを通じて偶然の出会い、ゆるいつながり」というテーマで、「ペットとパシャ」フотスポットの設置、「ペットとひと休み」ベンチやリードポールの設置、「ペットにオシャレを」ハロウィン仮装衣装やトリミング(検討中)という実行計画を発表。勢多農林高校の皆さんに強力なサポートをいただき、思わずペットの写真を撮りSNSにアップしたくなるような魅力的なスポットを用意します。そして散歩の途中、テイクアウトしたドリンクを片手にベンチでひと休み。利用者の利便性とマナー向上を兼ねて、ペットのおしっこを流す水もペットボトルで配布。いつもの散歩コース馬場川通りで、飼い主同士の偶然の出会いを演出します。

キッズ
チーム

あそぶ、つくる、つながる



第6回の構想発表会では、「あそぶ、つくる、つながる馬場川通り」というテーマで、実現性も高くエリアの親和性も高いと考えられた「アート」と「ブック」をキッズと掛け合わせる方針で発表に臨みました。まずアートに関しては、馬場川通りや前橋への思いをポストイットに書いて大きな紙に貼り合わせてプロジェクトのロゴを完成する「モザイクアート」や、前橋出身のアーティスト、サイトウアケミさんに協力していただき道路をキャンバスにキッズと一緒にチョークで絵を描き完成する参加型の「チョークアート」を計画しました。また、ブックに関しては本の交換会やプレゼントのアイデアはありましたが、計画の方向性としては野外図書館を開催し、秋晴れの青空の下でブックに触れる機会を作ります。

チーム

マルシェで「やってみたい」を応援

第6回の構想発表会へ向け、「運営チーム」はメンバーのコネクションをあたって、地方の特産物を創るプロジェクトや前橋出身イラストレーターのグッズ販売などの「物販系」も誘致、また学生や社会人ミュージシャンなど「音楽系」の参加者集めも行われました。さらに「建設チーム」は、地元の建築系大学生の力を借りて使わなくなった「物流用パレット」を再利用、アップサイクルしたマルシェ用の「パレット屋台」を設計！急遽、広瀬川文化交流のイベントとして行われたイベント「SFE(ストリートファニチャー)」にも出展されました。

そして発表会では「つながるマルシェ ～馬場川での「やってみたい！」を応援しよう～」をテーマに、馬場川通りを盛り上げたい既存事業者、物販やエンタメを「やってみたい！」新たなチャレンジャー、そしてお客様としてそれを楽しみたい人々という三者が「ゆるく、つながる」マルシェの実行計画が発表されました。運営のソフト面ではお客様/事業者/チャレンジャーのつながりを生み新しい文化を創造すること、建設のハード面では水と緑、限られた面積など通りの特性を活かしつつ、つながりを生み出す場づくりであることが説明されました。



今月末の土日、10月30日・31日、
馬場川通りが歩行者天国に！



ワークショップのアイデアから
実行計画が立案された本イベントは、
馬場川通り公園改修のための
社会実験として実施されます。
詳しくはポストカードまたはホームページで。

MDC
Maebashi Design Commission